

平成 12 年(2000 年)～平成 13 年(2001 年)に厚生労働省・難治性血管炎に関する調査研究班(研究代表者・橋本博史教授)『ANCA 関連血管炎感受性遺伝子の研究』にご参加いただいた皆様へ

平成 12 年(2000 年)～平成 13 年(2001 年)にかけて、厚生労働省・難治性血管炎に関する調査研究班による研究課題『ANCA 関連血管炎感受性遺伝子の研究』(研究代表者:橋本博史教授(順天堂大学))に参加のご同意を頂き、血液をご提供くださいました皆様へのご連絡です。

本研究は、研究期間終了後、遺伝子解析施設であった東京大学大学院医学系研究科・医学部研究倫理審査委員会の審査・承認に基づき、東京大学人類遺伝学分野におきまして、皆様方のお名前、生年月日、病院 ID などの個人情報と DNA 試料を照合するリストを廃棄し、照合できない形にした上で、ANCA 関連血管炎感受性遺伝子解析に利用させていただいてきました。研究担当者の異動に伴い、2007 年(平成 19 年)以降は、筑波大学大学院人間総合科学研究科および医学医療系医の倫理委員会の審査・承認に基づき、筑波大学医学医療系分子遺伝疫学研究室(研究責任者・土屋尚之)におきまして、解析を継続して参りました。

これまでは、ご同意いただきました、ANCA 関連血管炎との関連の可能性が想定される免疫系の遺伝子群に限定して解析を行ってききましたが、解析方法の進歩に伴い、ヒトゲノム全体に分布する塩基配列の個人差(一塩基多型)を解析し、ANCA 関連血管炎に関連する遺伝子を探索する、「ゲノムワイド関連研究」が標準的な手法となりました。このたび、この方法をもちいて、皆様からご提供いただきました貴重な DNA 試料を解析する計画を追加し、筑波大学医学医療系医の倫理委員会にて審議・承認が得られましたので、お知らせいたします。

なお、この解析のために、DNA 試料の一部、および、その結果得られる一塩基多型情報を、それぞれ、セキュリティが確保された方法で、受託解析機関に送付いたします。お名前、生年月日、病院 ID などはすでに廃棄されており、照合することはできない状態となっております。本研究から得られる遺伝子配列情報の一部は、「個人識別符号」に該当いたしますが、皆様の血液等の遺伝子解析を再度別途に解析して照合するなどの特殊な方法を使わない限り、皆様と結びつけることはできません。解析によって得られた情報は、筑波大学医学医療系分子遺伝疫学研究室(研究責任者・土屋尚之)における ANCA 関連血管炎の遺伝子解析研究に利用いたします。解析後に残った試料は筑波大学分子遺伝疫学研究室に返却されます。

ご不明の点がございましたら、下記までご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

令和4年11月

筑波大学医学医療系分子遺伝疫学研究室

土屋 尚之(研究責任者)

e-mail: tsuchiya.naoyuki.gm[アット]u.tsukuba.ac.jp

(送信時は[アット]を@に置換してください)